

演題：歯科医療安全の基本と実践 ～感染対策を中心として～

抄録：歯科診療における医療安全管理は、患者様および医療従事者の安全を守る上で不可欠です。特に感染対策は、院内感染の発生を防ぎ、安心して治療を受けていただける環境を維持するための根幹となります。本講習会では、最新の知見に基づいた歯科診療所における標準予防策の徹底と、具体的な感染防止対策の実践方法について解説します。



木下 樹（たつき）略歴

専門

歯科麻酔 障害児（者）歯科 有病児（者）歯科

経歴・職歴

平成 10 年 東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業

平成 14 年 東京医科歯科大学歯学部大学院修了（歯科麻酔学）

東京医科歯科大学歯学部付属病院

平成 15 年 国立成育医療センター手術・集中治療部

平成 17 年 群馬県立小児医療センター診療科長

平成 20 年 群馬小児保健賞受賞

平成 29 年 群馬県歯科保健賞受賞

令和 3 年 母子保健奨励賞受賞

資格・役職

歯学博士

日本歯科麻酔学会専門医

日本障害者歯科学会専門医

日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定療法士

AHA-BLS コースディレクター

AHA-ACLS リードインストラクター

AHA-PALS リードインストラクター

日本静脈経腸栄養学会TNTドクター

歯科臨床研修指導医

東京医科歯科大学非常勤講師

日本歯科麻酔学会代議員

日本障害者歯科学会代議員

関東障害者歯科臨床研究会幹事

渋川摂食嚥下研究会幹事

演題『デジタル化による効率化とIOSの考え方』

デジタル技術はあらゆる分野で発展し、歯科界においてもコロナウイルスの拡大をきっかけに感染予防の観点から口腔内スキャナーの導入が進み、現在では手頃な価格で精度の高いデバイスが販売され、デジタルの普及が進んだことで、歯科医師、歯科技工士間の円滑なコミュニケーションが可能となりました。また、デジタルの恩恵は患者に対しても、視覚的に分かりやすく説明ができるなど歯科医療は大きな変革期を迎えています。

口腔内スキャナーによる情報のデーター化は、従来の煩雑なやり取りや製作工程を大きく変え、デジタルによる時間の短縮や生産性の向上または、作業環境の改善など多くの利点がある一方、模型に合わせるという従来の基準がないため、思考を変えてIOSデーターに対して想像を巡らせ対応する必要があります。

最近ではDX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉が頻繁に使われますが、問題に対するの考え方や人との連携を活用しなければ、本当の意味でのデジタルを用いた変革や効率化の実現は難しいのではないのでしょうか。今回の講演では、IOSの活用やモノリシックジルコニアステイン法などを通して作業の効率化を実現する考え方などをお話させて頂きたいと思います。

略歴

枝川智之（エダカワ トモユキ）

- 1992年 早稲田トレーニングセンター卒業
- 1992年 同校インストラクター入社
- 1998年 中田デンタルセンター テクカルアドバイザーとして入社
- 2000年 有限会社 PASHAデンタルラボラトリー 開業
- 2006年 松風インストラクター就任
- 2007年 にしむら塾3期生 卒業
- 2008年 MCS非常勤講師 就任
- 2015年 松風アドバイザー 就任
- 2016年 デンタルアカデミー東京 非常勤講師 就任

著書

- 2019年 ZIRCONIA MONOLITHIC RESTORATION COMPLETE BOOK
クインテッセンス出版株式会社
- 2020年 月刊「歯科技工」別冊マテリアルセレクション
チェアサイドとラボサイドの円滑なコミュニケーションのために（医歯薬出版株式会社）
- 2022年 DIGITAL DENTISTRY YEARBOOK 2022
- 2023年 QDT MASTERPIECE
- 2023年 QDT DXを意識した労働生産性の向上と人材育成の両立 8、9月号連載
- 2025年 QDT モノリシックに対する立体感のある表現を目指して 8、9月号連載